

校区で生活するなかで、どのお困りごとがありますか？
「質問1の項目」から浮かび上がる校区の姿

古田校区：全体集計

2

地域共同体：解体の危機

C001 校校区・集落の地域共同体が、解体の方向に傾きつつある。

1 家と地域社会：継承の危機

B003 家族・親族を主体とした家と地域社会の継承ができなくなってきたている。

A004 家族・親族を主体とした家の継承ができなくなってきたている。

002 子ども

の数が減って、今後小学校の存続が心配。子育てがしにくい環境である。(ひと)

014 頼れる家族や親戚が近くにいない人が多い。(支援)

007 自宅の修理や空き家の管理ができない。(くらし)

相互に悪循環サイクルをなし

通底し

通底し

相互に悪循環サイクルをなし

B001 校校区・集落の自治運営活動が、住民の重荷になっている。

B002 住民同士の繋がり・支え合いの力が、希薄になっている。

004 住民同士の交流が少なくて、住民同士の繋がりが希薄である。(ひと)

A002 社会的弱者の見守り・支援の体制が不十分である。

003 独居・単身者が多く、見守り体制が不安、不十分である。(ひと)

004 住民同士の交流が少なくて、住民同士の繋がりが希薄である。(ひと)

A003 校区や集落の地域活動をリードする人、支える人がいない。

001 校区や集落の役員のなり手がない(負担が大きい)。(ひと)

005 若い人がいなくて地域の行事や清掃ができない。地域活動を支える後継者がいない。(ひと)

A006 校区・集落の事業運営の負担が、費用・労力の両面で重すぎる。

009 行事やイベントが多い。(くらし)

010 集落費や校区費が高い。(おかげね)

相互に悪循環サイクルをなし

3 生活と生計：消滅の危機

C002 地域住民の生活と生計を支える産業が少ない。

008 スーパーや商店がない(少ない)。(くらし)

011 働く場が無く(少なく)、賃金も少ない。(おかげね)

4 交通手段：不便

A001 交通手段の利便性が悪く、望む行動が制約される。

012 地域公共交通等交通機関の利用時間が合わない。(交通)

013 行きたいところに行ける利用しやすい交通手段がない。(交通)

抛って立つ基盤には

5 防災対応：手薄

C003 道路基盤整備を含めた交通灾害・自然災害に対する防災が手薄である。

A005 交通灾害・自然災害に対する防災が手薄である。

017 道路が舗装されていない。(防災)

006 危険箇所が多い(防犯灯・カーブミラー等の設置が不十分)。(くらし)

016 災害時に避難する場所がなく、防災等に対する取り組みが少ない。(防災)

018 その他：

(1) 2021年7月7日

(2) 情報工房

(3) 校区アンケート「質問1」の質問17項目

(4) 山浦晴男

注1) 文頭の数字は、質問項目の番号を示す。

注2) 文頭のアルファベットは、階層構造の段階を示す。

注3) 左上の丸数字は、分析結果の解説のストーリーの流れを示す。

古田校区「地域づくりアンケート」回答結果

(2021年6月アンケート)

【分析結果】

「質問1の項目」（校区での生活の困りごと）から浮かび上がった校区の姿は、次のようにある。

「家と地域社会」「地域共同体」「生活と生計」の3つの要素が、相互に悪循環サイクルをなしている。

第1の「家と地域社会」は、「継承の危機」にある。家族・親族を主体とした家と地域社会の継承ができなくなってきたている。

第2の「地域共同体」は、「解体の危機」にある。学校・集落の地域共同体が、解体の方向に傾きつつある。

第3の「生活と生計」は、「消滅の危機」にある。地域住民の生活と生計を支える産業が少ない。

これらがよって立つ基盤には、2つの側面がある。

一方は「交通手段」で、「不便」である。交通手段の利便性が悪く、望む行動が制約される。

もう一方は「防災対応」で、「手薄」となっている。道路基盤整備を含めた交通灾害・自然災害に対する防災が手薄である。

以上のように、現在の困りごとをこのまま放置すると近い将来、校区の地域社会の存続が危ぶまれる状況にされていることが、浮かび上がった。

■アンケート集計結果

ランク	得点幅	模様
A	176.1～220	■■■■■
B	132.1～176	■■■■■■
C	88.1～132	■■■■■■■
D	44.1～88	■■■■■■■■
E	0.1～44	■■■■■■■■■

(最高得点：219点)
(回答者数：221人)